

教 員 氏 名	小出祥子	職 位	准教授
最 終 学 歴	名古屋大学大学院文学研究科人文学専攻日本語学専門博士後期課程		
学 位	博士（文学）		
役 職		委員会	
担 当 科 目	「日本語表現」「キャリアデザインⅠ」「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」「卒業研究」 「ことばの世界」「文学の世界」「日本語概論」		
教科書・教材・教育方法の実践例	テキスト『実践 日本語表現-短大生・大学１年生のためのハンドブック-』（2017、ナカニシヤ出版）の執筆 テキスト『実践 日本語表現-伝わる日本語を身につける-』（2023、学術図書出版）の執筆 『大限界』（共著）（2023、三省堂）の出版		
教育研究業績	1. 「青少年教育施設の掲示物にみられる命令・依頼表現「～ように。」について—日本語を母語としない人たちにとっての分かりやすさの観点から—」（共著）（2025）桜花学園大学・名古屋短期大学 DX 教育研究センター研究紀要（1）31-46 2. 「自己 PR 文に関する文章指導についての提案——テキストマイニングを用いた分析から——」（2024）名古屋短期大学紀要（62）71-85 3. 『大限界』（共著）（2023）三省堂 4. 『実践 日本語表現-伝わる日本語を身につける-』（共著）（2023）学術図書出版 5. 「「日本語表現 A」におけるメールの書き方の指導とその効果」（共著）（2021）名古屋短期大学紀要（60）1-13 2022-03-15 名古屋短期大学 6. 「奈良時代語における助辞ケリと助辞ケム」（単著、査読付）（2020）名古屋大学国語国文学会, 名古屋大学国語国文学 113, 106 - 91 7. 「奈良時代語におけるラムカ構文とケムカモ構文」（単著）（2020）名古屋短期大学研究紀要（58），1-13, 2020-03-13 名古屋短期大学 8. 「奈良時代語体系における助辞ケリ・ケムの位置づけ」（単独発表）（2019. 7）名古屋大学国語国文学会 令和元年度春季大会 9. 「目的語となる上代の準体句について」（単著、査読付）（2018）Nagoya Linguistics, 12, 31-44 頁 10. 『実践 日本語表現』（共著）（2017）ナカニシヤ出版 11. 「古代日本語文における現実領域/非現実領域に関する研究」（博士論文）（2014）名古屋大学 12. 上代日本語における視覚の対象と現実/非現実領域—『見む』に注目して—（単著、査読付）（2013）美夫君志会, 美夫君志 87 13. 上代における終助詞力の意味変化とカ文の構造変化（単著、査読付）（2012）名古屋大学国語国文学会, 名古屋大学国語国文学 105		
所属学会	1. 名古屋大学国語国文学会 2. 名古屋言語研究会 3. 日本語学会 4. 万葉学会 5. 美夫君志会		

